

【演題】

『快適なRemovable Partial DentureになるためのDesignとFit』
『Removable Partial DentureのDesignと
ワックスアップのクリエイトコース』

株式会社マイシン 片岡 均

(三重県歯科技工士会)

日技認定講師

【抄録】

日本は世界でもまれにみる超高齢社会になって、人生100年時代とも言われるようになり、社会のあり方も大きく変化しました。それに伴い、現在の社会の仕組みでは対処できない事柄も浮き彫りとなっています。

歯科においても高齢者の老化によって生じる口腔機能の低下は大きな問題になっています。欠損補綴のオプションにはクラウン・インプラントなどの固定性補綴装置の他、オーバーデンチャー含めた義歯などの可撤性補綴装置など、対応は多様です。

とりわけRemovable Partial Dentureは高齢者にはインプラントに比べて身体的な負担、費用負担等が少なく治療後の調整や修理も容易です。また、口腔ケアが簡便でセルフケアでも十分な清掃性が保たれるというメリットもあります。

しかし、医療現場では、患者さんから義歯は「噛めない」「合わない」「痛い」「外れる」「汚れる」など言われ敬遠されがちです。

歯科技工士が基本理論を十分理解し、歯科医師と情報共有することにより個々の患者さんの将来を想定することができればRemovable Partial Dentureは永続性のあるものとなるのではないのでしょうか。永続性に繋がる条件は咀嚼機能の回復、清掃性、Fit(適合)が良い、デザイン性が高い、ことなどです。

近年のデジタル化の進化により金属床デンチャーの製作は時短となりますが、従来の耐火模型で製作する方法はより高いFitを得ることができます。

そこで、今回はRemovable Partial Dentureの設計とワックスアップのクリエイトコースを開催いたします。